自由南アフリカの声
Voice of Free South Africa

2015 年８月

No. 66

～1冊の本が人生を変える～

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)

２０１５年８月の報告と予定

■　１月～８月　南アにて図書・学校菜園・サッカー支援活動など。
　　各地で図書研修会、移動図書館巡回、有機農業研修会実施
　　国内にて、英語の本などを収集、分類・再梱包作業
■　３月　　TAAA より南アを訪問
■　３月　　南アにて州環境省の学校環境教育プログラム賞を受賞
■　７月　　JICA にて TAAA 活動報告会
■　８月　　TAAA より南アを訪問
　９月　　３７０箱以上（英語の本、算数セット、サッカーボール）を南アへ発送

目次

・南アフリカ KZN 州ウグ郡からの報告（平林薫）・・・・・・・・・・・・・２
・ズアール村でまだ活躍中の移動図書館車【いずみ号】（大友深雪）・・・６
・TAAA 活動報告会　（丸岡晶）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
・TAAA 会計報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
・州環境省から最優秀賞を受賞（野田千香子）・・・・・・・・・・・・・・９
・爽やかな風の吹く気持ちのいい日曜日！（西村裕子）・・・・・・・・・１０
・活動日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
・寄付金や本などを下さった方々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

。

KZN 州環境省から「学校環境教育プログラム」のサポート賞を受賞（記事 P9）

南アフリカ KZN 州ウグ郡からの報告

～地元から自主的な動きが育ち始めてきた！～

TAAA 南ア事務所代表　　平林 薫

“この仕事がしたい”という意識を持てるスタートライン

私たちの活動地域であるムタルメ・トゥートン学区はクワズールーナタール州・ウグ郡のウムズンベ自治区内にある。活動地域のことを知る上で、南ア統計局の 2011 年の情報をご紹介したい。まず失業率については、自治区内の経済活動を行える全人口の 51.9%と大変高い。中でも若者（15－34 歳）の失業率は 62.6%で、南ア全国 179 自治体中８位とかなりショッキングである。自治区内で雇用を創出する産業はサトウキビ栽培のみであり、自治区の人口約 16 万人のほとんどはルーラル（遠隔）地域に住んでいるため都市部へのアクセスも容易でないことなどが理由と言える。人々の生活に関しては、電気は全家庭の４９%に通っているが、家に水道が敷かれている家庭はたったの 5.1%、共同水道を利用している家庭が 38.6%、川に水を汲みに行かなければならない家庭が 35.4%である。また、現代社会ではいまや不可欠ともいえるインターネットにアクセスできていない人々が 81.4%という状態である。

対象校はこのような地域内にあり、地域の社会経済状況を反映している。学校の設備改善の遅れ、教材不足が続く中、家庭での生活状態も厳しいことから、生徒たちが十分な質の教育を受けられているとは言い難い。学校を中退する生徒も多く、例え卒業しても進学も就職もできない環境の中で親になり、その子供たちもまた同じ事態の繰り返し、という負のスパイラルに陥っている。

南アフリカは民主化から 20 年が過ぎ、“国の現状をもうアパルトヘイトのせいにするな”と言う人たちもいる。ジョハネスバーグ周辺のショッピングモールや住宅街などでは、超高級車に乗ったアフリカ人や、高級装飾品に身を包んだ美しいアフリカ人女性の姿を目にし、国の変化の過程においていわゆる“勝ち組”がいることを認識する。アフリカ人の経済参加を促進する BEE(Black Economic Empowerment)という政策があり、タイミング良くこの制度の下で成功を手にしたのだろう。しかし、果たしてこれが大多数のアフリカ人の経済参加を促しているかといえば疑問である。制度は立派だが、人々の準備ができていない段階で制度が先走ってしまったように見える。

対象地域の人たちの様子を見ると、自分たちの力では何も始められない、という意識を持っているようであり、これは確実にアパルトヘイト制度の残した悪である。長期にわたり“アフリカ人は下働き、単純作業に従事せよ”と言われ続けてきて、極端な話だが、突然“明日から社長になってもいいよ”と言われても何をしたらいいかわからないだろう。会社設立の手続きや事業資金の確保等、実際に起業するためのハードルは高いが、まず自信を持って“この仕事がしたい”という意識を持つことがスタートである。地域の大多数の人たちはこのスタートラインにも立っていないと言える

鍵となる学校教育

このような絶望的な状況を改善するには、教育しかない。負のスパイラルを断ち切り、人々が少しでも前向きに進んでいくようにできるのは、地域の中心である学校の力以外に考えられない。だからこそ、新しい国として再出発した南アフリカは、英知を集めて教育システムを整備した。しかし、現在のシステムは完全に学術重視で、勉強が遅れがちな生徒への対応が不十分だと感じる。皮肉なことにアパルトヘイト制度下では学校で木工や裁縫、調理などの技術を指導していたが、今、遠隔地域の学校では技術や芸術などの授業はほとんど見られない。設備や機材が必要な実習は、財源がないためできないのだ。

地域の人たちは、限られた物資を有効に利用して生活しており、一般的に手先も器用であることから、“ものづくり”は得意な方ではないかと思われる。それをどうやって仕事につなげたらいいのか、課題は大きく、明確な答えが出ずに気持ちは焦るばかりだ。学校教育が鍵を握っていることは確かであるから、学校で生徒一人一人の興味や才能に則した指導を行うことができればいいの。クラブ活動でいろいろなことにトライする中で自分が本当にやりたいことを見つけ、社会科見学や修学旅行で見聞を広げて将来の進む道を決定することができる。しかし、それらを導入するための莫大な資金の当てはなく、結局、現在のシステムに行き着いてしまうのだ。

私たちの活動は各助成金や国内のたくさんの方々のご支援により成り立っており、対象校や地域住民の認知度も上がってきている。しかし、このように大きな社会経済問題を抱える地域で活動をする中で、時折“どこまでできるのだろう。ニーズに十分に応えることができるのか”と不安や無力感にさいなまれることがある。そんな時はできるだけ、ザマさん、ステンベレくん・・・生徒一人一人の顔を思い浮かべ、“彼、彼女たちの力になりたいのだ”と考えるようにしている。活動に携わった生徒が将来何らかの形で活躍してくれることを信じ、今は種を撒いているような気持ちである。

有機農業のモデル地域作り

現在、JICA 草の根技術支援事業で“学校を拠点とした有機農業のモデル地域作り”を行っている。学校で農業指導をすることの有効性と可能性について考えてみたい。前述の通り、学校は地域の中心で、生徒自身が地域住民でもあることから、情報発信の役割を果たす。対象地域ではこれまで畑作りは主におばあちゃんの仕事と考えられていたこと、また、学校では罰則として畑仕事をさせていたこと、そしてアパルトヘイト制度の下での物理的、精神的影響などから、農業が積極的に行われてこなかった。それを教育の中に取り入れることで“技術習得”という方向に意識を変えていくことができる。特に小学生から楽しみながら畑仕事をするのが効果的で、継続して活動に参加している生徒の中には、高校生になって“農業に従事したい”という目標を表明する生徒も出てきた。また、自分たちの住む地域の土壌、気候が農業に適していることを実感し、地域の農業の可能性、将来性を認識できる。有機農業では高価な化学肥料や農薬を買わない・使わないので、対象地域のような場所では持続可能であり、環境にも好影響である。また、伝統農法と共に行うことで、文化継承にもつながる。

現在、対象校の５年生以上の菜園委員会メンバー生徒を対象に有機農業の基礎的知識を問うテストを行っている。テストは指導員が作成し、専門家のリチャード・ヘイグ（写真左：リチャード）に監修してもらった。これまでに小中高 16 校でテストを実施し、トップは 87%の同率でシボングジェケ高校（写真右上：テストを受ける生徒）とシヤペンバ小学校（写真前頁：同校の学校菜園）だった。シボングジェケ高校は山間部の小さな学校で、リソースは十分とは言えないが、熱心な教師の指導により、落ち着いて学業を行っている。ほとんどの生徒は隣のトゥルベケ小学校から進学してくるため、有機農業の基礎的知識と技術をしっかりと身につけている。驚いたのはシヤペンバ小生徒の活躍だ。担当のシンガ先生は、

自身が誠意をこめて畑仕事をする姿を生徒に見せており、研修会で学んだことを一つ一つ丁寧に生徒に指導している。それが今回のテストの結果となって現れたのだ。一点感じたのは、高校生の英語の理解力が不足しているのではないかということだ。テストの文面は英語なので、シヤペンバ小生徒にはズールー語に訳して説明をした。答えをわかっていても問題の文章が完全に理解できなかった高校生がかなりいたようだ。これに関しては図書活動の方と連携して、生徒の英語力向上を促進しなければと考えている。

“畑パッションの卒業生・校長”

私自身、活動地域に拠点を移して４年になり、一つの地域に集中して活動を行うことで、学校や地域住民とのつながりが深まってきた。近くの小さな町のスーパーで校長先生と立ち話、なんていうこともよくある。今では自分の故郷で活動をしているような気持である。

活動を続けていると素敵な出会いやうれしい体験もある。活動が活発に行われているバンギビーゾ小の司書教師ザマ先生の夫で州環境省に勤務するザマ氏がSEEP(SCHOOL ENVIRONMENT EDUCATION PROGRAM―学校環境教育プログラム)を担当しており、優秀校の表彰式の際にTAAAも“学校サポーター”として表彰を受けた。この受賞は私自身もスタッフにとっても大きな励みとなった。現在、ザマ氏と連絡を取り合いながら、州環境省とも協力体制ができてきている。

会報65号で“畑パッションの人”と紹介した、ムタルメ卒業生グループのンギディ氏とメンバー（写真左）の地道な活動が、地域の人たちに影響を及ぼしている。彼らはムタルメ小学校の敷地内に畑を作っているが、学校周辺の住民が畑作りに興味を示したり、これまで荒れ地になっていた場所で畑作りを始めたりしているのだ。他のグループメンバーもムタルメグループの畑を訪問してンギディ氏から学んでいる。ンギディ氏は“情熱は力なり”ということを私たちに教えてくれている。

同じく会報65号で紹介した“畑パッションの校長”トゥルベケ小のドラドラ校長（写真上：畑で指導するドラドラ校長）の情熱も衰えることなく、畑作りは生徒の学校生活の一部となっている。保護者への畑作りの促進については、地域の人たちの特色ともいえる“あくせくしない”ところに時折いら立ちを見せながらも、忍耐強く続けている。イノシシの被害に遭ってやる気を失ってしまった家庭もあるが、竹で柵を作るなどして、無理せず、自分たちのペースで活動を行っている。

有機農場や農業博覧会見学

３月には２グループ、４校の小学生が、農業専門家リチャード・ヘイグ氏のエナレニ農場で研修を受けた。参加したほとんどの生徒が牧畜や養鶏に興味を示す中、アンケートに“自分でパンやマヨネーズを作ったのが楽しかった”と書いた男子生徒がいた。これをきっかけに調理師を目指すなどということもあるかもしれない。氏はいつも“作物を生産したら、おいしくいただくことで完結する”と言う。そして何事にも情熱を持って取り組むことが大切なのだということを、身をもって私たちに教えてくれている。

６月４日にはミニバス４台、中高校生徒40名と教師20名の総勢60名でピーターマリッツバーグのロイヤル・ショー（農業博覧会）を訪問した。参加者ほとんどが初めての訪問で、様々な種類の家畜の展示や最新の農業機材に目を丸くしていた。生徒にはワークシートを持たせ、農業専門学校生徒の案内で会場を回った。将来、農業専門学校に進んで広く農業について学びたい生徒たちは、その理由として、“自分の住む地域には広い土地があるので、将来作物栽培に従事したい”“有機農業とその生産物の有効性をより多くの人に伝えたい”“地域の人に質の良い野菜を提供したい”などと記していた。彼らは学校に戻って他の生徒に報告をし、菜園活動の中でリーダーシップを発揮している。

世界的に産業のグローバル化が行き詰まりを見せる中で、今こそ小さい単位の地域化が求められているのではないだろうか。対象地域内だけを見ても、沿岸部から山間部まで環境や生活スタイルがかなり違っており、それぞれに合った方法で

活動が行われている。小規模ではあるが、学校から“農村づくり”が始まったと言えるだろう。

図書委員会の卒業生がTAAAのスタッフに

４月から図書活動に新しいスタッフが加わった。モンドリ・チリザ君は対象校ルトゥリ高校の卒業生で、昨年までの在学当時、図書委員として大活躍していた。現在は図書担当スタッフのカムレラ・グメデと共に移動図書館車で対象校を巡回訪問し、生徒に本の扱い方や図書室の利用法を指導しながら本の貸出しを行っている。図書委員として自身が学んだことや経験を、熱意を持って後輩に伝えてくれている。２人とも地元出身、地元の学校を卒業しているため、顔見知りの教師も多く、学校の情報が入手しやすいと言う利点もある。　　**写真：カムレラ（左）、モンドリ（右）**

会報65号で図書室を荒らされてしまったという報告をしたクワバヴ高校では、セキュリティーバーと窓ガラスを修理し、部屋の清掃と本の整理をして何とか再開することができた。学校を荒らすような地域住民や生徒がいることは問題だが、基本的に学校側のマネージメントがしっかりとしていない証拠である。現在は司書教師２名体制で、１名が図書室内に常駐して管理をしている。荒らされた際に辞書や百科事典の一部を失ってしまったため補給もした。今後、学校からのリクエストも聞きながら、蔵書を増やしていく予定。このような環境の中で教鞭をとる教師も、学ぶ生徒もどちらも大変である。同校にはより時間をかけて支援を行っていきたい。

新規対象校のウムズンベ高校（現在はジョージ・ムベレ高に改名）はパートナーのサンディーレの母校で、ミエニ校長は彼の恩師である。州教育省および電力会社 ESKOM の支援で新校舎が建設され、立派な図書室も設置されたが、蔵書が不十分なこと、管理や利用法について教師が十分に習得していなかったことから、ほとんど利用されていない状態だった。TAAA の活動の対象校となり、司書教師が研修会に参加し、図書委員会の設置、寄贈した本を生徒と共に仕分け・整理を行い、図書室の利用が始まった。

一昨年コンテナー図書室を設置したボングズワネ高校、カンヤ高校では、現在図書室がフル活用されている。ボングズワネ高はしばらく活動が滞っていたが、図書活動の重要性を認識した若い司書教師が担当になってから一気に進み始めた。カンヤ高では、放課後や週末、休暇中も図書室をオープンにして、特に卒業試験を控えた12年生が勉強できるような状態にしており、TAAA から寄贈の本が有効に利用されている。

６月末にはひろしま祈りの石財団の助成金により、ムナフ小にコンテナー図書室を設置することができた。同小はグレードR（幼稚園）からグレード３（３年生）までのジュニア・プライマリーだが、沿岸部に位置することから生徒数600名と大きな学校だ。空いているスペースは全くないため、これまでは司書教師の３年生の教室に図書室を設置していた。他のクラスが使いづらいため、４年前からコンテナー図書室寄贈のリクエストを受けており、今回やっと実現できた。現在の高校生の英語力に遅れが見られるのは、小学校でズールー語から英語にスイッチする際に混乱や、内容的に不十分なところがあったためで、小学校低学年からズールー語と英語を同時にしっかりと指導していくことが望まれている。読書も小さいころから習慣にすることが最も重要であることから、コンテナー図書室を利用した今後のムナフ小の図書活動に期待している。

ズアール村でまだ活躍中の移動図書館車「いずみ号」

この３月末に、ケープタウンから遙か離れたジョージタウンに近い山中の村で地元の教員を中心に活動してきたズアール移動図書館プロジェクトから、何年かぶりでうれしい報告が届きました。TAAA が、所沢市から寄贈された「いずみ号」をズアールに送ったのは１９９７年のことでした。もう１７年も経つのに、あの「いずみ号」がまだ活躍しているとは、うれしい驚きです。今年で識字維持向上活動の１５年目を祝ったというズアール移動図書館プロジェクトからの報告を要約して数々の写真と共に紹介いたします。

ズアールでのプロジェクトは相変わらず、奥地の学校や集落に識字用図書・教材を届けています。この何年間で私たちのプロジェクトもこの地域の識字向上に効果を上げることが叶い、対象校の一つである Towerkop 小学校が、最もめざましい識字向上を達成したとして賞金を授与されました。

プロジェクト運営委員会は毎年開催される Worcester での移動図書館会議に出席すると同時に、ゾアール移動図書館関係者会議を年４回開催し、情報や体験を分かち合っています。

「いずみ号」と呼ばれるいすず自動車バスは、何年にも亘ってすばらしい働きをしてくれたのですが、今は冷却機能とオイルポンプの調子が悪く長距離運行からは退役しております。
しかし短距離用にはそのパワーはまだ捨てたものではなく、３つの小学校と３つの子ども会に走ってくれています。（末尾にその具体的な情報を一覧表にしておきます）

この間、西ケープ州教育省から新しいバスを一台支給され、そちらが長距離運行を担当しています。目的地には舗装されていない凸凹道をかなりの時間をかけてたどり着くといった状況ではありますが。

プロジェクト運営委員会は、この１５年間、一人のメンバー交代を除いては、設立当初の面々で続けています。貴会が私たちの活動にお寄せ下さる関心に感謝し、いつまでも心にとめて活動し続けたいと思っています。

（訳：大友深雪）

いずみ号運航先一覧

小学校/子ども会名	教員数	学習者数
Zoar E.K. Primary	１５	３６０
R.P. Botha Primary	７	２５０
Amalienstein Primary	１１	３３３
Alabama Playgroup	４	７８
Buzy Bees	６	８０
Toddlers	３	３５

TAAA 活動報告会

丸岡 晶

7月12日（日）９：３０～１１：３０、市ヶ谷のＪＩＣＡ地球ひろばにて、ＴＡＡＡ 講演会が開催されました。最初に浅見会長から挨拶があり、第１部はＴＡＡＡ南アフリ カ事務所代表の平林薫による報告、第２部は東京農業大学の稲泉博己教授による講演、という構成でした。

浅見会長からは、今、現地では自立の芽が出てきており、我々にとっては歴史的転換点という話 がありました。１０数年前に南アを視察した際は、寄贈した移動図書館車が草原に置かれたままとなっており、愕然としたとのこと。やはり物をあげるだけでは不十分であり、ソフトの部分が重要です。ここにきて、運営委員をやっていた生徒が卒業してＴＡＡＡのスタッフに加わるようになり、まさに真の意味での支援につながってきました。

平林さんからは、南アの状況、菜園プロジェクト、図書プロジェクトに関する報告があ りました。南アは現在、２人に１人は失業している状況であり、電気の普及率は４９％、 水道の普及率は5．１％と相変わらず厳しい状況です。アパルトヘイトはなくなりまし たが、ずっと負のスパイラルが続いています。そ のような中、学校は地域の中心であり、ＴＡＡＡは学校にアプローチをかけて活動を続けています。

菜園プロジェクトでは委員会が活動の中心となっており、上級生が下級生に教えるようになってきています。また、先生が一生懸命になると、それが生徒へも伝わっていくようです。ジュニアの生徒たちはお母さんと一緒に活動していますが、高校生になってからいきなりスタートしても続かないことがわかってきました。早い段階から始めることが良さそうです。通常の活動に加え、リチャード氏の農場見学や、ピーターマリッツバーグの農業展示会見学なども織り交ぜており、これらは子どもたちにとって良い経験となっています。

図書プロジェクトでは、移動図書館車の運行に加え、今回は助成金をもらえたことからコンテナ図書室も設置しました。英語の本はもちろん、教材自体が少ないので、算数セットもとても喜ばれています。子どもたちだけでなく、実は先生も図書室を使った経験がないことも多いため、まずは先生に図書室の利用方法・マネジメント手法を学んでもらう必要がありいます。なお、残念なことに図書室が荒らされてしまうこともありますが、司書の常駐など対策を打ちつつ、活動を継続しています。

次に稲泉先生からは、学術的な視点で、南アの農業、ＴＡＡＡの菜園プロジェクトを分 析していただきました。南アの農業を各種統計、対GD Ｐ比率の観点でみると、それほど大きなインパクトはありませんが、地域・個人の視点に立つと、より積極的な意義があると指摘されました。それは、農業の雇用吸収力が期待されており、個人の社会的自立の契機ともなるためです。

ＴＡＡＡの菜園プロジェクトについては、実施者、運営方法、利用方法、授業科目との 連動、食育活動などの項目で整理し、客観的な解説を加えていただきました。特に印象的だったのは次のエピソードです。稲泉博己先生が子どもたちに好きな野菜と嫌いな野菜を質問したところ、好きな野菜はニンジン・ホウレンソウ、嫌いな野菜はキャベツ、との回答がかえってきました。なぜか。キャベツは虫食いが多く、手入れが大変 なためです。 これこそまさに、ＴＡＡＡの菜園プロジェクトが現地に根付いている証拠である、と指摘されました。

最後には、ルソーの「エミール」から推察される農業の教育力や、日本との連携の可能性などにも言及され、本講演会は幕を閉じました。次回の講演会は今年１２月、さいたま市で予定しております。ぜひふるってご参加ください。

2014年度(平成26年度)　活動計算書

(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

単位：円

科　　目	金　　額		
Ⅰ　経常収益			
1　受取会費			
正会員受取会費	88,000		
賛助会員受取会費	40,000	128,000	
2　受取寄附金			
受取寄附金	1,213,510	1,213,510	
3　受取助成金等			
受取公共助成金	9,030,937		
4　その他収益			
受取利息	438		
雑収入	0	438	
経常収益計（A）			10,372,885
Ⅱ　経常費用			
1　事業費			
⑴人件費			
給料手当	5,447,498		
臨時雇賃金	29,866		
法定福利費	0		
人件費計	5,477,364		
⑵その他経費			
プロジェクト物資購入費	426,798		
研修費	697,270		
制作費	0		
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ物資輸送運搬諸経費	439,959		
旅費交通費	475,990		
車両諸経費・燃料費	1,154,698		
車両修理代	435,631		
視察訪問費	255,600		
専門家派遣費	279,040		
施設使用料	4,770		
会議費	42,658		
通信・運搬費	132,649		
印刷・製本費	37,605		
消耗品費	56,074		
水道光熱費	9,655		
地代家賃	270,000		
支払手数料	0		
保険料	195,450		
雑費	36,459		
その他経費計	4,950,306		
事業費計		10,427,670	

次ページに続く

2　管理費			
⑴人件費			
役員報酬	0		
人件費計	0		
⑵その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	0		
通信運搬費	30, 324		
消耗品費	11, 155		
水道光熱費	0		
支払手数料	98, 834		
地代家賃	90, 000		
事務所設備・修繕費	376, 794		
前年度助成金返還金	228, 666		
雑費	1, 104		
その他経費計	836, 877		
管理費計		836, 877	
経常費用計（B）			11, 264, 547
当期経常増減額（A－B）			▲ 891, 662
Ⅲ　経常外収益			
1　固定資産売却益		0	
経常外収益計（C）			0
Ⅳ　経常外費用			
1　過年度損益修正損		1, 738	
2　為替差損		76, 202	
経常外費用計（D）			77, 940
①当期正味財産増減額（A-B＋C-D）			▲ 969, 602
②前期繰越正味財産額			3, 514, 051
次期繰越正味財産額（①＋②）			2, 544, 449

★州環境省から最優秀賞を受賞！★

野田千香子

2015 年３月、TAAA のプロジェクトの対象校、バンギビーゾ小学校が KZN 州環境省主催の「学校環境教育プログラム」で、最優秀賞を受賞しました。そして、平林薫（TAAA 南ア事務所代表）も個人で受賞し、団体としては TAAA がサポート賞１位を獲得しました。授賞式には、州農業省、州水道賞、州地域開発省などの各省庁と自治体関係者が出席しました。バンギビーゾ小（写真右）は、有機菜園活動を活発に行うだけでなく、図書プロジェクトにおいても、段ボールに小麦粉を塗って固めた箱を本棚にするなど、リサイクル活動も積極的に行っている学校です。受賞は学校にとって大きな励ましとなっています。

３ 月と８月に、TAAA の代表久我祐子が現地を訪問し、平林や現地スタッフと地域を回り、多くのミーティングをしてきました。そして次のように述べています。「一番嬉しい瞬間は、『プロジェクトが彼らのものになった』または『彼らのものになりつつある』という手応えを感じた時です。今回の８月初旬から一週間の視察訪問でも、そんな嬉しい場面に何度も出くわしました。」ムナフ小学校では TAAA から送った図書室を放課後に開放し、先生たちの自主的な活動として、コミュニティの成人の勉強の場にも利用していたのには、感嘆したと言っています。多くの学校と校長、先生、生徒、現地の先生で作る教育 NGO、関係省庁の人たちと会い、現状を知り、活動の進展状況と彼らの積極的な、そして自主的なかかわりと今後への期待を確認することができました。

今後とも皆様のあたたかいご支援をどうか、よろしくお願いいたします。

♪爽やかな風が吹く気持ちのいい日曜日♪

西村 裕子

5月１７日の作業には、千葉県の冨里小学校より、生徒さん５名、ご父兄３名、先生１名　合計９名の皆さんがご参加下さいました。冨里小学校の皆さんは、以前に算数セットを集めて、TAAA に送ってくださり、今日は作業のお手伝いにと、遠路来て下さったのです。

今日は、TAAA スタッフも９名参加。小学生の参加を楽しみにしていた鯨井さんは、皆さんに見て頂こうと、お手製の資料を用意して、一番乗りで作業場に到着しました♪　そこへ、元気いっぱいの小学生が加わり、かつてないほどの混雑ぶりでした。しかし人数が増えても、小学生なので、平均年齢は上がらず・・若さあふれる作業場でしたね、皆さん、ありがとう♪

鯨井さんの資料を配って、簡潔＆にこやかに丸岡副代表が手順を説明して、さぁ、いよいよパッキングの開始！　最初はみんな、こわごわだったけれど、すぐに慣れた様子で楽しそうでした。重い箱も、がんばって持ち上げて、腕が痛くなっちゃったね。箱の側面に、平林さん宛のコメントを書いてくれましたので、平林さん、楽しみにしていてください♪　途中、皆さんが集めて下さった算数セットが出てきて、感動の再会！　自分が使った算数セットを、丁寧に箱につめて、それが海を渡って遠い南アフリカに届くと思うと、本当に嬉しいね♪　（写真：図書室に算数セットも置かれている）

南アでは、算数セットを授業に使ったり、生徒達が自由に数遊びができるように図書室に置いたりして、活用されています。最近では、算数セットを送って下さる方が増えていて、「算数セットの寄贈先をネットで探していたら、TAAA のHP にたどり着いた」と算数セットを通して TAAA を知る方々が増えているようです。

私が小学校に入学する時も、算数セットはありました。45 年位前のお話ですが・・きれいな色で、いろいろな形のこまかいパーツが入っていて、母がその一つ一つに名前を書いてくれて、これを使って勉強するのかな～と思うと、とても大切な気持ちになって、何回も何回も箱を開けて、中身がちゃんと入っているか確認したのを思い出します。私が使った算数セットは、たぶん捨ててしまったかな。そんな大切なものだったから、他の誰かに使ってもらえたらどんなによかったか・・と今になって思います。 南アの子供たちも、皆さんから届いた算数セットに目を輝かせ、子供らしい色々な工夫をして、楽しく使ってくれているそうです♪

今日は、冨里小のみなさんのがんばりのお蔭で、NO. 172 から始めて、なんと 56 箱完成！！こんなにたくさん出来上がるのは、普段では考えられません。

冨里小のみなさん、今日作った箱が、いつ日本を出発して、いつ南アに届くのか、それから、学校へ届くまでの道のりを楽しみにしていてくださいね。日本のいろいろな地域から、英語の本や、算数セットやサッカーボールを送ってくださいます。私たちも、その箱を開けるとき、そこの皆さんがどんなふうに使っていたのかな？などと想像して、いつもワクワクした気持ちです。

冨里小学校の皆さん、遠いから、作業にはいらっしゃれないと思いますが、千葉県から TAAA を応援してくださいね♪　今日は、ありがとうございました！

お疲れ様でした～！！

◆ 主な活動（2015年1月16日～2015年7月15日）

〈日本国内〉

1/20～2/5　会報65号編集　　野田千香子
2/15～2/20　同上校正　　西村裕子　野田
2/15 作業　野田　西村　船橋諒平　　山口雅樹
2/27～3/4　会報発送準備　　高野千恵美　野田
2/27　　本のレベル別種分け作業　　大友深雪
　久我祐子　　野田
3/1　住所ラベル準備　　西村
3/2　印刷準備pdf化　　印刷　浦和コムナーレにて
　野田　　久我
3/16 ミーティング　　久我　　野田
3/22～29　　南ア視察訪問へ　　久我
3/17　送られてきた本を作業場へ搬入　北爪健一
4/17　　JICA会議、2014年度事業報告　　久我
4/19　作業・報告会　　鯨井幸一　野田　西村
　浅見克則　久我　梶村佐喜江　田中慎太郎
4/24　　本の種分け作業　　大友　　久我
4/25　アメリカンスクールインジャパンよりトラックで
　本引き取り　　浅見　北爪　鯨井　津山ネオ
5月～　2014年度事業報告書作成　　久我
5月～7月　　TAAA報告会の準備　　丸岡晶
5/7～8　5/14　　会計確認作業　　高野
5/17　梱包作業　鯨井　丸岡　西村　野田　大友
　高野　浅見　横山晃祐　千葉県富里小学校より
　小川恵子教諭　生徒さん　佐藤辰樹　越川慶士　越川
　愛生　初芝拓海　林武広　保護者　佐藤幸夫
　初芝めぐみ　越川一美
5/17　2015年度理事会　　久我　浅見
　野田　丸岡　下谷房道
6/3　　外務省訪問　　久我　　野田
6/10 セントメリーインターナショナルスクールより本
　引き取り　　浅見
6/11　　本の種分け作業　　大友　　久我
6/17　広尾学園インターナショナルスクールより本引き
　取り　　浅見
6/25　　ミーティング　久我　　平林
6/28　作業　　野田　　横山　丸岡　　下谷　　浅見
　浦和学院高校より　三橋加奈　渡辺美沙樹
6/28　総会　下谷　丸岡　久我　浅見　　野田
　平林　　茂住
6/29　　JICA草の根説明会参加　　平林　久我
7/7　　JICAミーティング　2015年度第1四半期報告
　　提出　　久我
7/8 青葉インターナショナルスクールより本引き取り
　　浅見　　森直之
7/12　市ヶ谷JICAにてTAAA報告会（講師：平林、
　稲泉博己）　丸岡　　久我　浅見　　野田
　高野　船橋　山口

〈南アフリカ共和国〉

1/28　一時帰国より南アへ戻る　平林薫（以下、同様）
1/30 スタッフ会議
2/2～6　学校巡回訪問指導、車両登録更新、学校及びグ
　ループとの会議等
2/9～13　学校巡回訪問指導、本の配布、バス点検等
2/16～20　学校巡回訪問指導、本の配布、会議等
2/23～25　学校巡回訪問指導　菜園担当教師研修会
2/26～27　学校巡回訪問指導
3/1　本の仕分けと整理
3/2～4　学校巡回訪問指導
3/5　エナレニ農場にて研修会開催（小学校2校）
3/6　学校巡回訪問指導、グループ菜園で会議
3/7～8　学校別寄贈用本の仕分け
3/9～13　学校巡回訪問指導、本の寄贈、Bonguzwane
　高菜園フェンス設置等
3/16～20　学校巡回訪問指導、事務処理等
3/22　パンフ制作打合せ　平林　久我　中地明子
3/23～26　久我代表、スタッフと学校訪問
3/27　JICA所長、在南ア日本大使と会議　久我　平林
3/28　MEIベントレイさん訪問　久我　平林
3/30　KwaBhavu高菜園フェンス設置
3/31　州環境省SEEPプログラム表彰式出席
4/1～2　グループ畑で会議
4/6～10　グループ畑巡回訪問指導、URDO等と会議
4/11～17　本の仕分けと整理, 学校巡回訪問指導、新ス
タッフ（モンドリ君）活動開始
4/20～24　　学校巡回訪問指導、州農業省と会議等
4/28～30　学校巡回訪問指導、州環境省SEEPプログ
　ラム研修会参加等
5/1　本の仕分けと整理
5/5～7　エナレニ農場にて教師対象研修会開催
5/12～15　学校巡回訪問指導、Kwa Fica高図書委員生
　徒への研修等
5/18～22　学校巡回訪問指導、菜園委員生徒モニタリン
　グ、グループ菜園で会議
5/25～29　学校巡回訪問指導、菜園委員生徒モニタリン
　グ、本の寄贈等
6/1　図書研修会、農業博覧会訪問準備
6/2　司書教師対象研修会開催
6/3　卒業生グループメンバー他と農業博覧会訪問
6/4　菜園担当教師20名、生徒40名が農業博覧会訪問
6/8～12　学校巡回訪問指導、菜園委員生徒モニタリン
　グ、バス整備等
6/15～18　学校巡回訪問指導、モニタリング採点、州環
　境省担当者と会議等
6/19　Mnafu小にコンテナー図書室配備、バス登録更新
6/22　平林南ア代表、日本へ出発